

東邦大学学術リポジトリ



OPAC

東邦大学メディアセンター

タイトル	田中政信教授送別の辞
別タイトル	Farewell Professor Masanobu Tanaka
作成者（著者）	森田, 峰人
公開者	東邦大学医学会
発行日	2014.05
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 61(3). p.124 124.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	退任記念
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.61.124
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD23537293

田中政信教授送別の辞

森田 峰人

東邦大学医学部産科婦人科学講座（大森）教授

田中政信教授は、平成26年3月31日をもちまして東邦大学医学部産科婦人科学講座（大森）教授（病院）を定年退職されました。先生は、昭和49年に東邦大学医学部をご卒業され、へき地診療を経験された後に、昭和50年に、当時、林 基之教授が主宰されておりました、産科婦人科学第1講座に入局されました。入局後は、4年間の関連病院出張の後に、昭和56年に医学部の助手になりました。昭和59年には、平川 舜名誉教授のご指導の下、先生の研究テーマの「子宮頸管熟化とプロスタグランジンに関する研究」で、医学博士の学位を授与されました。平成4年には医学部講師、平成16年には医学部助教授、そして平成20年には医学部教授として、総合周産期母子医療センターの部長になられ、現在に至っておられます。また、平成21年から3年間、東邦大学医療センター大森病院の院長補佐としてもご活躍されました。平成25年からは、東京都社会保険診療報酬請求書審査委員会審査委員として、産婦人科におきまして保険指導も行っていただいております。

私が入局した昭和58年当時、先生は卒後9年、入局後8年の若手で、産科のホープとして活躍されていました。産婦人科の研修は最低限の産科をマスターすることから始まります。同期入局が7名いたわれわれの面倒を見ていただき、先生には産科の“イロハ”を一からご指導いただきました。ずいぶん好き勝手なことを言い、ご面倒をおかけした新人たちであったことと思います。

先生は周産期、いわゆる産婦人科の中の産科のスペシャリストであり、現在は絶滅危惧種かもしれない、古き良き産科医でいらっしゃいます。産婦人科の系統講義は4年次（M4）で行われますが、先生の講義は学生たちに大変好評

で、講義室に今まさに娩出されたばかりの胎盤を持ち込み、産科の講義をされておりました。先生の講義により、産科に興味を持った学生も多数いることと思います。また5年次（M5）の臨床実習におけるクルズスも好評で、先生のクルズスを受ける予定の日には、学生たちは朝からその時間を待ち望んで実習を行っておりました。昨今、産婦人科の中でも産科をめざす者が非常に減少している現状の中で、産科の面白さを医局員、研修医のみならず学生に対しましても、大変、奥深い指導を行っていただきました。

また先生は地域の周産期医療の充実にも大変ご尽力くださいました。東邦大学医療センター大森病院は、平成9年に東京都の総合周産期母子医療センターとして指定を受けて以来、都内および周辺地域からのハイリスク妊娠・分娩管理の母体搬送に24時間対応してきましたが、先生にはその陣頭指揮をとっていただき、東京都における周産期医療の充実にもご貢献いただきました。また最近では、日本における「お産の安全神話」に対して、世界一安全なお産を提供している日本においても、決して安全なお産はない…お産は命がけである…というようなことを、多数のご講演を通して世の中に発信していただいております。

このような教室にとっても大変貴重な、余人をもって代えがたい先生が、定年を迎えられ、退職されることは本当に名残り惜しく、まだまだ教えて頂きたいことがたくさんあります。これからも今しばらくは保険指導という名目で、今までと変わらぬ後進の指導をお願い申し上げたいと思っておりますので、どうか健康に留意され、お元気で活躍いただきたいと思います。